



### 知らないと損する？ 情報通必携用語



この本では、OPACで本を探したり、データベースで情報を検索したりすることに関係があるけれど、日常ではあまりなじみのない言葉がいくつか出てきます。これを知っていると、情報通に一步近づくかも？

**ISBN：** 国際標準図書番号。本の裏表紙に書いてあることが多いので、見たことがない人はチェックしてみましょう。以前は10桁の番号でしたが、2007年から13桁に増えました。OPACではどちらでも検索できます。探している図書のISBNを知っていると、OPACでズバリその図書の情報を見つけられますね。

**ISSN：** 国際標準逐次刊行物番号。8桁の番号です。逐次刊行物というのは、雑誌や新聞のような、同じタイトルで継続的に発行される刊行物のことです。ISBNと同じく、OPACで検索するときにISSNがわかっていると、よく似たタイトルの雑誌があっても迷わず見つけられるのでとても便利です。

**書誌情報：** それぞれの文献を識別するための情報のこと。たとえば図書なら、タイトルや著者名、出版社、出版年など。雑誌論文なら、タイトル、著者名のほかに掲載誌名や巻・号、ページなど。この情報が不十分だと、探している文献がどこにあるか見つけられないかも、という大切なものです。

**目録：** 図書館では、本の書誌情報と所在情報（どこにあるか）のリストのことを目録と呼んでいます。「徳島大学蔵書目録」という場合の「目録」がそれです。ただし「文献目録」というと、書誌情報だけで所在情報は載っていない資料の場合が多いようです。

**二次資料：** 図書や雑誌のようにオリジナルの情報が載っているものを一次資料というのに対して、一次資料のデータを収集して、一次資料を探し出せるようにまとめたものを二次資料といいます。文献を探すためのデータベースや参考図書が二次資料です。

**抄録（Abstract）：** 学術論文には多くの場合、内容を要約した文章がついていて、それを抄録（Abstract）といいます。データベースでは、抄録を読んだり、抄録に出てくる言葉で論文を検索したりできます。次の第4章でたくさん出てくる言葉なので、覚えておきましょう。